
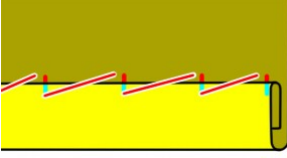
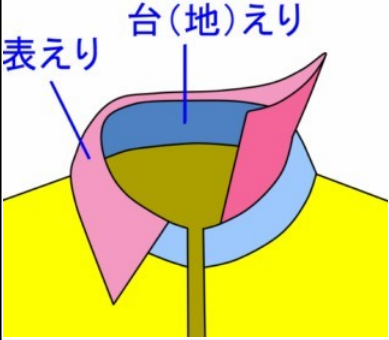

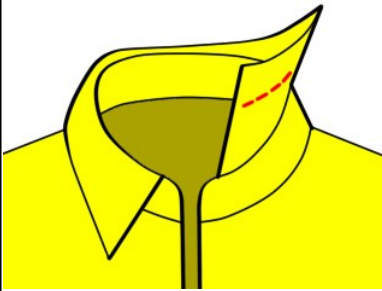

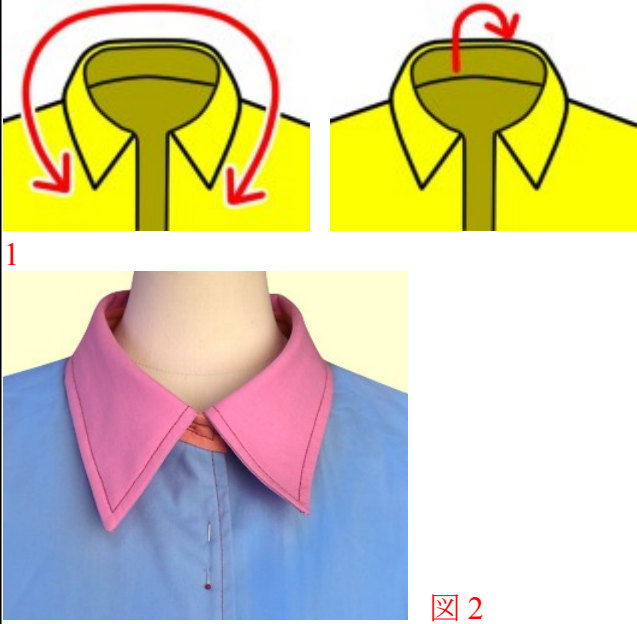

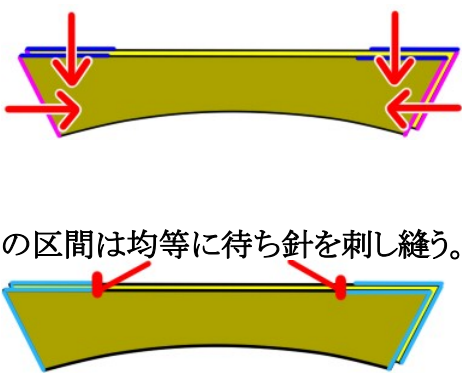
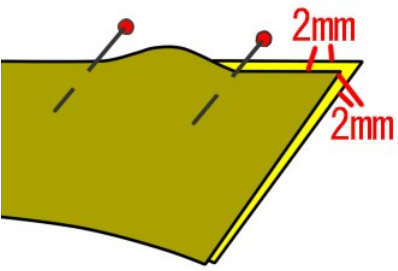


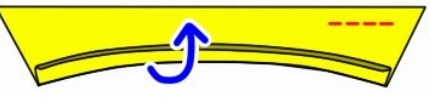
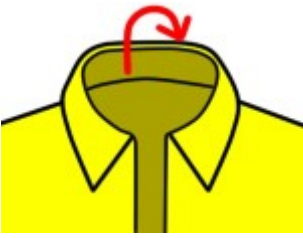
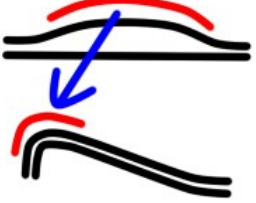

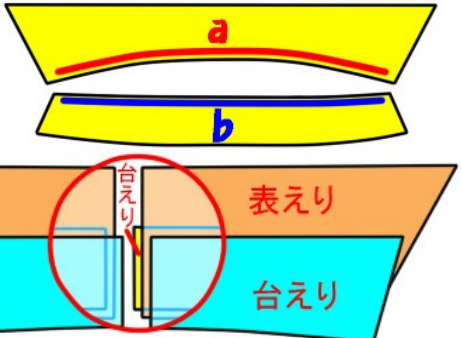
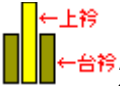
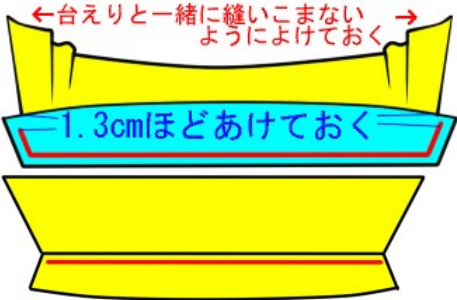
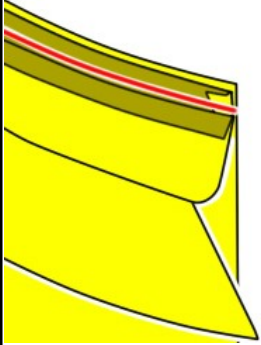
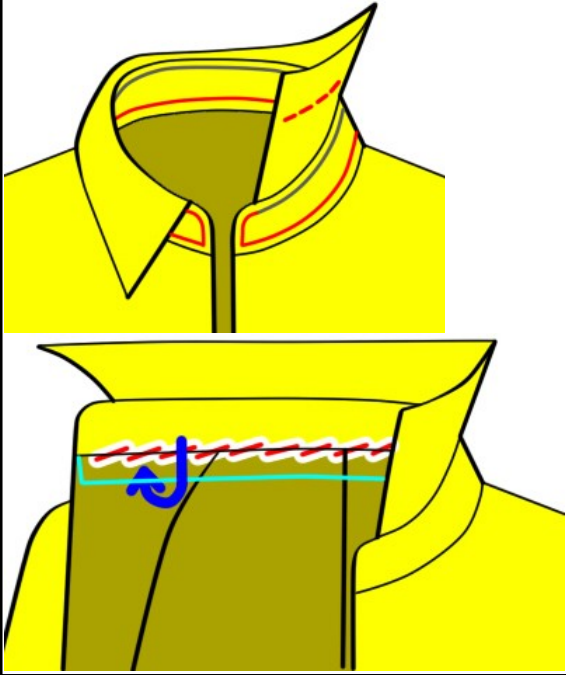
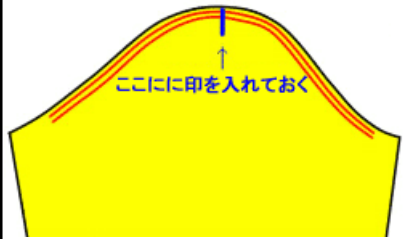
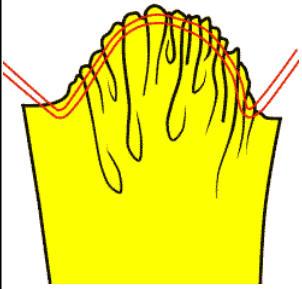
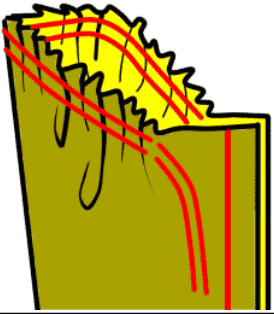
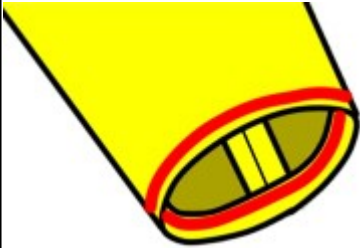
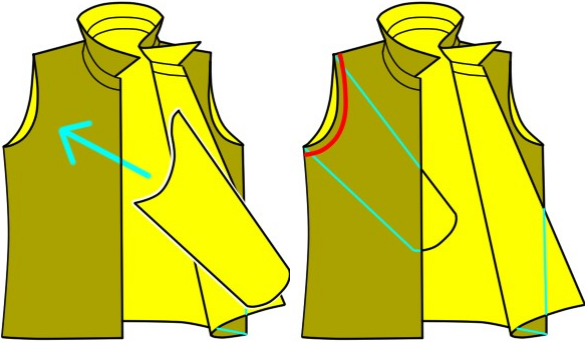



	<p>身頃のダーツ(服を立体にするためのつまみ)を縫う。 (このデザインに関してはダーツを縫ってからほつれ止めをしたほうが良いです) ダーツは頂点と下の点を結ぶように半分に折りくの字に縫う。 ほつれ止めをする ダーツは前は脇、後は中心に向けて折って下さい。</p>
<p>■表 ■裏 ■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。 見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける くわしくは縫う前の下準備を参照</p>
	<p>表同士が内側(中表)になるように前後の身頃を重ねる。 肩と脇を縫う。</p>
	<p>表を上にした身頃に見返しを裏を上にして重ねる。</p>  <p>台えりがあるタイプは左のようにまっすぐ上まで縫う</p>  <p>台えりのないシャツえりや</p>  <p>スタンドカラーは、右の図のように端ではなく前中心からえりが付く。 そのため前中心から出来上がり線までまっすぐ下に縫ってから、出来上がり線上を縫う。 表返す際にひきつらないよう角に切り込みを入れる。</p>
	<p>見返しを裏へ返して端から5mmの所を縫う</p>

	<p>アイロンですその縫い代を折る。 縫い代の幅より 0.3~0.5mm 短めの所を縫う お好みでまつり縫いにしてもよい</p>  <p>まつりぬい。 表の繊維を1~2本すくい、折り返した縫い代を縫う。 0.5~1 cmおきに同じように表の繊維を救うの繰り返し</p>
	<p>シャツカラーの縫い方</p> <p>このような2つのパーツの型紙になります。 各2枚ずつ裁断してください。 上側を表(上)衿、下の方を台(地)衿と呼びます。</p>
	<p>えりの裏に接着芯を貼ってください。 台えりの裏側に隠れるほうの下側の縫い代をアイロンで 2mm くらい狭く折ってください。 1cm の縫い代だったら 8mm くらいで。 この2mmがミシンで縫ったとき縫い目がえりから落ちにくくなるポイントです。</p>
	 <p>どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけてください。 完成したら抜くので玉止めなどはしなくてよい。</p>
 <p>1</p> <p>図2</p>	<p>えりのゆるみを作ります このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ(図1)があります。</p>  <p>外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。 その差を補うために2~3 mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。 これをしないと図2の右のえりのように長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。</p>

 <p>この区間は均等に待ち針を刺し縫う。</p>	<p>えり先のゆるみの作り方</p>  <p>このとき図 A のように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を2~3mm内側にずらしてまち針をさす。しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を内側へ押しこむようにして縫う。</p>
	<p>シャツカラーの縫い方</p> <p>衿(えり)を表が内側になるように二枚重ねて縫ってください。</p> <p>※衿に縫い付ける所は縫わない。</p>
	<p>表に返して5mmの所に表から縫ってこていしてください</p>
	 <p>印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折ってください。この時えりがズレます。このずれが折り返しの緩みになります。赤の矢印の方向のゆるみ。</p>
 <p>断面図</p>	<p>こうすると図のように見える側のえり(印がないほう)が膨らみますが、実際えりにつけた時に、えりを折り返した時の布の厚みで相殺されて、えりがすっきりします。</p>
	<p>上で出来たズレを、そのままに端から0.5cmの所を縫う。</p>
	 <p>←上衿 ←台衿 2枚の台えりで間に上えりを挟むようにして重ね</p> <p>上の図の a と b の部分を縫い合わせる。</p> <p>ちなみに先に縫い代を折っておいた台えりは、表えりの見えるほうのえりへあわせる。</p>

	<p>間にはさんだ上えりの両脇を縫いこまないようによけておく。</p> <p>台衿の両サイドも縫う。</p> <p>台えりの端 1.3mm位は縫わずにあけておく。</p> <p>表に返して縫い目から 0.5cm (赤い線) の所を縫う。</p> <p>★柔らかく仕上げたいときは、上の赤い線は縫わずにアイロンをかけて形を整える。</p>
	<p>えりの端を前身頃の前中心に合わせる。</p> <p>しつけの印のある方のえりの縫い代だけ、身頃のえり首に縫いつける</p>
	<p>縫い代を内側に折る。</p> <p>仕付け糸で大まかに縫ってえりがずれないように固定する。</p> <p>ミシンで表から 0.5cm の所を縫う。</p> <p>★柔らかく仕上げたい場合は、縫い代を内側へ折り、手縫いでえりを閉じる。</p>
	<p><u>袖山</u>には袖を立体にする為に余裕が入っている場合があります。</p> <p>ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。</p> <p>ギャザーを寄せなくてもよいそでもあります。</p>


	<p>縫い代の中を2本縫います 1本より2本縫ったほうがギャザーが均等に寄せやすいです。</p> <p>そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。 (これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)</p>
	<p>糸調整を元に戻し中表にし、袖底(赤い部分)を縫います。</p>
	<p>表に戻して直線で内側からステッチをかけます。 アイロンで折りぐせをつけておくと綺麗に縫えますよ！</p>
	 <p>最後に、袖と本体を中表にあわせる。 袖山の中心と肩、袖底の縫い目と、脇の縫い目をあわせ、ギャザーの量を調節しながら待ち針で止める。 なれていない人はしっかりしつけをしてまち針を外してからミシンで縫い合わせる。(そうしないと針を折りますよ)</p>
	<p>前合せにボタンをつけて完成です。 ボタンの穴のあけ方はミシンによって違いますので、ミシンの説明書を参照してください 分からない場合は→ボタンホールの作り方</p>



ターンオーバーカラーの縫い方(台えりのないタイプ)

スタンドカラーも同様の縫い方です。ただしスタンドカラーはゆるみは不要

	<p>どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけておく。</p>
	<p>えり先のゆるみを作る。 詳しくは台付きシャツカラーの縫い方を参照してください</p>
	<p>シャツカラーの縫い方 衿(えり)を表が内側になるよう(中表)に二枚重ねて縫う。 ※衿に縫い付ける所は縫わない。</p>
	<p>えりを身頃のえり首に縫いつける。 裏側の台えりをよけて表側の台えりだけ縫いつける。</p>
	<p>裏のえりの縫い代を中に入れる。 端から2~3mmの所をしつけ糸で縫う。 (大きい縫い目でよい)</p>

	<p>しつけ縫いの2~3mm上をミシンで縫うか、手縫い(まつり縫い)でえりを閉じる。</p>
	<p>端から5mmの所を縫ってください</p>

このデザインに使いやすい生地

T/Cブロード

綿とポリエステル混紡素材で、普通のブロードに比べ少々高いのですが、しわになりにくく縫いやすい生地なので、毎日のお洗濯のあとのお手入れがラクなんです。

普段着使いにしたいのなら、TCブロードが一番だと思います！

塩素系漂白剤の使用はおさげ下さいね。

シーチング TCブロードに比べシワが入りやすいですが、風合いが柔らかく、無地ならば色数も豊富で、値段もお手ごろです。

縫いやすく、初心者には扱いやすいです。

ツイル中厚地の生地なので縫いやすいです。カジュアルでザクツとした感じのデザインにしたいときにどうぞ。

関連説明書

縫う前の下準備